福岡大学病院　消化器内科　卒後臨床研修プログラム

Ⅰ．ブログラムの特徴

福岡大学病院消化器内科は肝・胆・膵疾患と消化管疾患を専門とする内科である。当科の特徴として、これらの専門分野において最高レベルの医療が行える医師を育成するとともに、内科全般の診断能力に富んだ医師の養成を目指している。さらに臨床研修修了後、大学病院内および関連病院で専門スタッフの指導により，診断や治療のための検査手技を習得可能である。日本内科学会専門医、消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、消化管学会専門医、肝臓学会専門医、超音波医学会専門医、胆道学会指導医、膵臓学会指導医の資格取得ができる。

Ⅱ．診療科概要

スタッフは、**平井 郁仁教授**(消化管・炎症性腸疾患)、**釈迦堂 敏診療教授**(肝)、**横山 圭二講師**(肝)、**芦塚 伸也**（消化管・炎症性腸疾患)、**田中 崇講師**（肝)、**石田　祐介講師**（胆・膵)、**石橋 英樹講師**(消化管)、**船越 禎広助教**（消化管)、**高田 和英助教**（肝)、 **福永　篤志助教**（肝)、**土屋 直壮助教**（胆・膵)、**久能 宣昭助教**（消化管）で構成されている。

医療設備：CT、MRI、PET-CT、腹部エコー、消化管 X 線装置、上・下部消化管内視鏡(Olympus, FUJI)、上・下部拡大内視鏡、カプセル内視鏡、超音波内視鏡、十二指腸鏡、バルーン小腸内視鏡(Olympus, FUJI)、経口膵胆管鏡(Olympus, Boston Scientific)、超音波エラストグラフィー、フィブロスキャン、ラジオ波焼灼機器、新規マイクロ波焼灼機器

外来診療：新患は月～金曜日まで日受け付けている。
腹部超音波検査と上部内視鏡検査は月～金の午前中は毎日行っており、多くの場合受付当日施行できるようにしている。

特　色：

【消化管グループ】消化器癌に対して内視鏡検査、超音波内視鏡検査およびＸ線検査などの精密検査で詳細な診断を行った後、治療法を検討し、内視鏡治療の適応と診断した病変に対し積極的に治療を行っている。内視鏡治療としては早期食道癌、早期胃癌、大腸ポリープ、早期大腸癌に対して内視鏡的粘膜切除術（EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行っている。内視鏡治療の適応外病変は消化器外科と連携し治療法を検討し、外科手術を行っている。また、腸閉塞、消化管出血などの ER 対応が必要となる消化器疾患に対しても多くの患者さんを受け入れ治療を行っている。

潰瘍性大腸炎やクローン病、他の腸疾患については患者さんを数多く診察しており、九州でも有数の炎症性腸疾患専門病院である。血液検査や内視鏡検査による診断や適切な生物学的製剤による薬物療法、栄養療法、顆粒球除去療法、腸管狭窄に対する内視鏡的狭窄拡張術を行っている。また治験や最新の臨床研究も積極的に取り入れている。

【肝グループ】主に肝疾患の診断と治療を行い、福岡市のみならず、九州近県からの来院も多い。ウイルス性慢性肝炎(Ｂ型肝炎、Ｃ型肝炎)に対する抗ウイルス療法の症例も多い。肝癌に対する治療法であるラジオ波焼灼術は、すでに 2,000 例を超える治療数を達成した。また、自己免疫性肝疾患、肝硬変、肝癌患者に対して、国内外の肝移植外科施設との連携により生体肝移植、脳死肝移植を行っている。

肝硬変患者に合併した食道・胃静脈瘤に対する積極的な治療を行っている。劇症肝炎や重症急性膵炎に対して、当院の救命救急センターと連携して治療を行っている。

【胆膵グループ】良悪性問わず胆膵疾患全般の診療を行っており、胆道結石・膵炎局所合併症など良性疾患に対する治療から胆膵領域悪性腫瘍に対する診断・化学療法まで多岐にわたっている。特に内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)関連手技・超音波内視鏡(EUS)関連手技を用いた診断・治療に力を入れており、内視鏡的総胆管結石除去術・内視鏡的胆道ドレナージ術・経口胆道鏡/膵管鏡・術後再建腸管症例に対するバルーン内視鏡下処置・超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診/組織診・超音波内視鏡ガイド下瘻孔形成術・超音波内視鏡下胆道ドレナージ術などを行っている。胆膵領域は他科との連携が重要であり、消化器外科・病理学講座と合同で行っているカンファランスを通して集学的治療を円滑に行っている。

症例数・治療：

【消化管グループ】 上部消化管内視鏡検査は年間約 4,500 例､下部消化管内視鏡検査は約 3,000 例、カプセル小腸内視鏡検査は約 70 例、ダブルバルーン小腸内視鏡検査は約 50 例、超音波内視鏡検査は約 100 例行っている。消化管Ｘ線検査は、食道胃透視は約 200 例､経口およびゾンデ小腸造影は約 100 例、逆行性注腸造影は約 80 例行っている。

消化器癌に対してこれらの精密検査を行い、内視鏡治療の適応と診断した病変に対して、内視鏡治療を行っている。主な内視鏡治療としては、早期食道癌約 30 例、早期胃癌約 100 例、大腸腺腫・早期大腸癌約 400 例に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD)、内視鏡的粘膜切除術（EMR）を行っている。

消化管出血に対しては、救命救急センターと連携し、積極的に急患を受け入れており、緊急内視鏡的止血術を年間約 100 例行っている。

炎症性腸疾患（IBD)においては、約 250 例のクローン病、約 400 例の潰瘍性大腸炎の症例をフォローアップしている。初期治療や再燃増悪での入院患者は年間 150 例以上であり、生物学的製剤による薬物療法、顆粒球除去療法、栄養療法による寛解導入療法を行っている。最新の治験薬による治療も、多数例導入している。腸管狭窄症例に対しては、内視鏡的狭窄拡張術を行っている。外科治療が必要な症例もあり、消化器外科と連携し、IBD 診療を行っている。また、多職種（看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー)とも連携し、定期的な IBD カンファレンスを行い、IBD チーム医療を実践している。

【肝グループ】当科での腹部超音波検査数は年間 3,500 例にのぼり、超音波エラストグラフィーや Fusion 機能を搭載した最新鋭の超音波機器を用いている。また、超音波を用いた検査や治療は、肝生検数 220 例／年、肝癌の局所治療であるラジオ波焼灼術は年間 80-100 例ほど行っており累計では既に 2,000 件を越えている。また、超音波を用いた肝膿瘍や腹水の穿刺治療も積極的に行っている。

肝癌入院治療数は 300 例／年と多く、ラジオ波焼灼術、新規マイクロ波焼灼術、肝動脈化学塞栓術、全身化学療法（分子標的剤、免疫チェックポイント阻害剤）等を行っている。肝癌治療については、当科・消化器外科・放射線科と合同カンファレンスを週 1 回実施し、大学病院の長所を生かした集学的な治療を行っている。

B 型慢性肝炎に対する核酸アナログ治療や、C 型慢性肝炎に対する経口薬治療（DAA 治療）は 1000 症例以上施行しており、肝硬変への進展予防、肝細胞癌の発症予防という面からも高い治療効果をあげている。肝硬変症は多彩な合併症を呈するが、近年栄養療法や新規薬物療法が発達しており当科でも積極的に行っている。難治性腹水に対しては当院腎センターと協力して、腹水濾過濃縮再静注療法（CART）を積極的に行っている。肝硬変症の合併症である食道・胃静脈瘤に対しては、肝臓グループの医師による内視鏡的食道胃静脈瘤治療を行っており、胃静脈瘤に対しては放射線科と連携して血管造影下治療であるバルーン下逆行性経静脈的塞栓術（BRTO）も行っている。また、食道・胃静脈瘤破裂による消化管緊急内視鏡も当院の救命救急センターと連携しており、即時に対応可能である。実績として、内視鏡下食道静脈瘤治療数 120 例／年、BRTO 多数例行っている。

【胆膵グループ】ERCP 関連手技約 340 例，EUS 関連手技約 300 例を行っており、近年症例数は増加傾向である。ERCP 関連手技の基本である結石治療・ドレナージはもちろんのこと、充実した内視鏡設備を背景に、経口胆道鏡下電気水圧式衝撃波結石破砕術・術後再建腸管症例に対するバルーン内視鏡下処置・超音波内視鏡下瘻孔形成術など一般病院では施行が難しい低侵襲治療・新規内視鏡治療も行っている。また悪性腫瘍に対しては術前化学療法および切除不能病変に対する全身化学療法を担当しており、治療経過中に生じうる消化管狭窄に対しては、時期を逸することなく消化管ステント留置術などの緩和治療を行っている。

Ⅲ．研修目標

病棟において５～８人の患者を受け持ち、日本内科学会認定内科専門医制度研修カリキュラムに準拠し、消化管疾患、肝・胆・膵疾患に関する診療技術と知識を学ぶ。この間に厚生労働省の定める到達目標(臨床研修部会)のうち、一般目標、基本的診察法(1)、(2)、(3)、基本的治療法(1)、(2)、基本的手技の中の小外科的な手技を除く部分、末期医療、患者・家族関係、医療メンバー、文書記録、診療計画・評価、ターミナルケアなどを修得する。

また、基本的な検査手技として単純 X 線検査、X 線 CT 検査、超音波検査、内視鏡検査を、受け持ち患者の検査として診療に活用できるような実践的な臨床修練を行う。

Ⅳ．研修内容

(1) オリエンテーション

研修開始前に院内諸規定、施設設備の概要と利用法、健康保険制度、医事法規、文献検索、簡単な検査法などについて一連のレクチャーがある。

(2) 入院紹介ならびに診療部長回診

診療部長が１週間に１回、新入院患者についてのカンファレンスを行い、入院中の患者の回診、研修医の指導を行う。

(3) グループ回診ならびに症例検討会

数人の指導医の上にグループ長がおかれ、指導医、研修医の指導、教育に当たる。１週間に１回、グループ長の主催する症例検討会が開かれる。

(4) 指導医回診および症例検討会

１名の研修医に１人の指導医がつき、研修医を指導、教育する。指導医による回診、討議は随時行われる。

(5) 消化管グループ、肝臓グループ、胆膵グループカンファレンス

消化器科の中の専門グループ（消化管グループ、肝臓グループ、胆膵グループ）によるカンフアレンスが１週間に１回に行われる。

(6) 消化器内科抄読会および医局会

消化器内科の抄読会および医局会が１週間に１回行われる。これには研修医も参加する。

(7) 消化器内科症例検討会

月１回、学内および関連病院のすべての医師が症例を持ち寄り、検討会を行う。

(8) 肝癌症例検討会

消化器内科、放射線科、消化器外科、病理で、肝癌手術症例を中心にカンファレンス（不定期）を行っている。ここでは、内科または外科からの視点、画像診断、病理診断からの検証などさまざまな意見交換を行っている。

(9) 消化管症例検討会

月１回、消化器内科、消化器外科、病理で、食道・胃・大腸腫瘍の内視鏡治療症例を中心に内視鏡と病理の比較検討会を行っている。

(10) 消化器レクチャー

月１回、若手医師（3、4 年目）向けに、当科スタッフが基本から専門的な領域にわたる消化器疾患（消化管・肝・胆膵）の知識、学会等で話題となっている最近のトレンドなどについてレクチャーを行っている。

Ⅴ．当科の医療安全等に係る研修医教育

毎週火曜日　17 時から　30～60 分程度

(1) 消化器内科病棟における体制、診療
　研修医、上級医、看護師、コメディカルとの連携

(2) 消化器内科領域で使用する抗癌剤や劇薬
　薬理作用、投与方法について

(3) 上部消化管における病態、診断、治療

(4) 下部消化管における病態、診断、治療

(5) ウイルス性肝炎の診断、治療、HBV 再活性化

(6) 肝硬変、肝細胞癌の診断、治療

(7) 内視鏡シミュレーターでの内視鏡実技演習

(8) 腹部超音波検査の実技演習

Ⅵ．週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td>8:40 AM～</td><td>病棟診療
検査実習</td><td>病棟診療
検査実習</td><td>病棟診療
検査実習</td><td>病棟診療
検査実習</td><td>病棟診療
検査実習</td></tr>
<tr><td>12:00 PM</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1:00 PM</td><td rowspan="3">肝病棟
カンファレンス
肝組織所見会</td><td></td><td rowspan="4">病棟診療
検査実習</td><td rowspan="4">病棟診療
検査実習</td><td rowspan="4">病棟診療
検査実習</td></tr>
<tr><td>1:30 PM</td><td>入院紹介・医局会</td></tr>
<tr><td>2:30 PM</td><td>教授回診</td></tr>
<tr><td>4:00 PM</td><td>病棟診療
検査実習</td><td rowspan="2">消化管病棟
カンファレンス</td></tr>
<tr><td>5:00 PM</td><td>胆膵合同
カンファレンス
(内科・外科・病理)
スタッフ会議</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5:30 PM</td><td>消化器内科
抄読会</td><td>消化器レクチャー
(月 1 回)</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6:00 PM</td><td>ﾘｻｰﾁｶﾝﾌｧﾚﾝｽ
新薬説明会</td><td></td><td></td><td></td><td>胆膵病棟
カンファ
レンス</td></tr>
<tr><td>6:30 PM</td><td></td><td>ESD カンファレンス(内科外科)</td><td>外科合同
術前カンファレンス</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7:00 PM</td><td></td><td>症例検討会
(年 5 回)</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

消化管透視	月、水、金	上部・下部消化管内視鏡	月～金 AM・PM
小腸内視鏡	水、木 PM	腹部エコー	月～金 AM
超音波内視鏡	月、火、金	EUS-FNA	月、火、金
ERCP	月、金	食道静脈瘤治療	月～金 PM
肝癌ラジオ波治療	月～金 PM	肝動脈塞栓術	月、火、木
BRTO	随時		

Ⅶ. 研修プログラム責任者

消化器内科　診療部長（主任教授）　平井　郁仁

Ⅷ. 指導医一覧

平井　郁仁	教授	平成 3 卒	内科学会	認定医・指導医
			消化器病学会	専門医
			消化器内視鏡学会	専門医・指導医
			消化管学会	専門医
釈迦堂　敏	准教授	昭 60 卒	内科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器病学会	専門医・指導医
			肝臓学会	専門医・指導医
			消化器内視鏡学会	専門医
横山　圭二	講師	平 11 卒	内科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器病学会	専門医・指導医
			肝臓学会	専門医・指導医
			消化器内視鏡学会	専門医
			門脈圧亢進症学会	技術認定医
芦塚　伸也	講師	平 11 卒	内科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器病学会	専門医・指導医
			消化器内視鏡学会	専門医・指導医
			消化管学会	専門医
田中　崇	講師	平 14 卒	内科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器病学会	専門医・指導医
			肝臓学会	専門医・指導医
石田　祐介	講師	平 12 卒	内科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器病学会	専門医・指導医
			消化器内視鏡学会	専門医・指導医
			胆道学会	指導医
			膵臓学会	指導医
			超音波医学会	専門医・指導医
			消化管学会	専門医・指導医

石橋　英樹	講師	平 12 卒	内科学会	認定医・指導医
			消化器病学会	専門医・指導医
			消化器内視鏡学会	専門医・指導医
			消化管学会	指導医
船越　禎広	助教	平 12 卒	内科学会	認定医・指導医
			消化器病学会	専門医
			消化器内視鏡学会	専門医・指導医
			消化管学会	専門医・指導医
高田　和英	助教	平 14 卒	内科学会	認定医・専門医・指導医
			消化器病学会	専門医・指導医
			肝臓学会	専門医
福永　篤志	助教	平 19 卒		
久能　宣昭	助教	平 21 卒	内科学会	認定医
			消化器病学会	専門医
			消化器内視鏡学会	専門医
土屋　直壮	助教	平 21 卒	内科学会	認定医
			消化器病学会	専門医